



コルテス 伊藤の我が音楽人生

第11回 JAZZは死んだか?

こんにちは、先生方。いつも読んで頂きありがとうございます。

早いもので協会さんに掲載して頂き、はや2年を越えました。本当にありがとうございます。

今回は、「JAZZは死んだか?」という物騒なタイトルで書かせて頂きますが、そんなに大げさなものではないので。気楽に読んでください。

これまで、いろいろなことを書かせて頂きましたが、今回はJAZZ一本に絞って考えてみようと思います。JAZZに出会って好奇心たけなわであった少年はマイルス、コルトレーン、チャーリーパーカー、ビルエバンス、アートペッパー、次から次に新しいミュージシャンのレコードをむさぼるように聞きまくっておりましたが、1980年代にFUSIONなる音楽が出現。とても耳障りの良い音楽であったがために私自身も浮気し始めるわけです。車の免許をとり、彼女を隣に乗せてSHAKATAKやBOB JAMES、SQUAREなどカセットテープでかけてドライブしていたわけですね。いまこの文章を書いているのも軟弱な自分自身に情けなくて(笑)。そしてその時が私の考える第一次JAZZ危機で、評論家の方もやはりJAZZは死んだと考える方もいたようです。

大物ミュージシャンのクロスオーバーへの傾倒も多く見られました。しかし、その心地よいサウンドのために飽きられるのも早く、我を取り戻すにはそれ程時間はかからなかったようです。そのあとは、電化マイルスに行くもの、そのままもう少しJAZZに近づきJAZZとFUSIONの混合型に狂うもの、JAZZなんてやめたと行ってROCKへと行くもの、そしてやはり原点復帰BLUENOTE、RIVERSIDE、PRESTEGEなどのクラシックJAZZへと戻るもの、このあたりから人生色々、音楽も色々になったようです。

“新しい形のJAZZの出現”これがなければ本当にJAZZは衰退、若しくはJAZZ離れは多くなってしまったのではと思うことを書いてみます。

天才的なミュージシャンの台頭、ヨーロッパのJAZZの新鮮な香り、CDの出現により長時間録音が可能になって即興演奏が自由に。新しいレーベルが沢山出てきてそれぞれが独自のカラーによってリスナーに訴えてきたこと。特にVENUSレーベルのCD、レコードは音も良くジャケットも素晴らしいものが多く、マニアの心線に触れたのも大きいことでした。

昔のFM放送で恐山のいたこさんに、ジョンコルトレーンの霊を呼んでいただき前衛JAZZの頂点までいってしまったコルトレーンの音楽に対して、いたこさんに、もし今でもJAZZミュージシャンだったらあなた(つまりコルトレーン)はどうなっていましたか?と、問いたら答えは、「やはり元に戻るだろう、つまり4ビートのJAZZをやったであろう」という、凄い答えが返ってきました。今思うとそれが真実なのかやらせなのかは考えないとしても、良い



放送だったと思います。最後にコルトレーンのバラードが流れて来た時はジーンとききましたね。

ところで、コルテスではピアノソロの素晴らしいCDを全世界で発売し、またハイレゾ配信も始めました。前にも書いたと思いますがルクセンブルグのピアニスト、ミッシェルレイスのピアノソロです。

なんと、タイトルはMITO。そうです水戸なんです。彼は水戸とコルテスが大好きで今回発売にいたりました。音も、演奏も本当に素晴らしいです。コルテスでのライブ録音の時の様子はコミュニケーションのホームページにCORTEZ.JPからご覧になれます。ぜひとも見てください。そこから、購入もできます。どうぞ、よろしく願いいたします。

ところで、本題に戻りますがやはりJAZZは死にません。なぜなら、そこには感動が次から次へと感じられるからです。クラシックJAZZのまねではなく、強烈な個性を持ったミュージシャンまたそれを世に出そうという素晴らしいレーベルがある限り、JAZZは死にません。

最後に先生方も体調管理をしっかりして良いJAZZ、良い音楽をいつまでも楽しみましょう。

そういえば、歯科医師会支部の名簿が届きました。ここ数年で皆さんお変わりになりましたね。人のことは言えませんが(笑)またお会いしましょう。

(ひたちなか市 伊藤歯科医院・伊藤輝彦)